

ふるさとわがまちづくり

国附自治区

◆祭りと住民生活今昔

矢作川の左岸に位置する国附町は、流れに沿うように山があり地形的には決して良い条件とは言えませんが、先輩各位の切実な尽力により残された貴重な歴史ある財産、伝統の文化があります。これらは、私共住民の誇りで、常に神社・寺は住民の心のより所であります。

昭和初期、秋の大祭式典の終わる頃より、献馬・警固が奉納され、警固衣装に身を固めた子供から大人まで「ホッサイ、ホッサイ」の掛け声も勇ましく上馬場（上広場）に終結、気合充分の棒の手が奉納されました。

夕方間近の頃、人馬一体の駆け込みでクライマックスに入ります。火縄銃の轟音鳴り響き、硝煙と火薬の臭いが立ち込め、法螺貝の音が流れる頃には夕闇迫り大祭行事も終了し、夜は舞台（上の広場の一角）で田舎芝居が上演されたこともあり、役者は地元有志の熱演で竹敷の席も満員大盛況でありました。

夜店（下馬場、現在のちびっ子広場）も出る程で、遅くまで店の前をうろついていた思い出もあります。

日曜日ごとのお宮掃除と、桜洞寺名残のお堂でのお経の練習は子供の日課でありました。当時は働く職場も少ない時代、年4回の養蚕飼育で、繭を集荷所（旧公会堂）に集め、出荷された養蚕収入こそが唯一の生活資金でした。



鮎釣りで生計を援助する人も多く、宮下の集荷所（ごみステーションの位置の一軒家）へ夕方に釣り人が鮎を持ち込み、氷詰めされた鮎は、翌日早朝には名古屋の市場まで自転車で出荷されました。先輩方の根性と頑張りには頭の下がる思いであります。

この頃は、鮎釣り解禁日にも釣り人の少ない状態で寂しい限りです。今こそ清流を取り戻すためにも、河川の愛護・川辺の愛護こそ必須と思われまます。住民長年の願いであった、三代目富国橋も水と緑に調和し、環境を活かした巨大永久橋となり竣工も間近であります。生活道路の改修をはじめ、町内を明るく、風通しを良くし、きれいな川を眺め、自然の恵みをいただく環境づくりは、住民一丸となつての理解と協力で取組むべき大きな課題であります。



◆まちづくり

現在、国附自治区では見通しの良い明るいまちづくりを進めています。若い人達が戻って来て、共に生活できる自治区を目指し、区民協力のもと全員で頑張っています。

その1つとして、自治区内の道路の整備及び立木の伐採、荒地の草刈りなど定期的実施し、明るく、矢作川と共存できるまちづくりを進めています。

国附自治区データ

(H20.4現在)

世帯数：22世帯
：40世帯（昭和51年）
組数：2組
面積：0.646Km²
自治区たより：「くにつき」年4回
回覧：月2回
ちびっ子広場：1箇所
ふれあい広場：1箇所
防犯灯設置箇所：13箇所
小学校：東広瀬小学校区
自治区会館：国附公民館